

第2回志布志市ひとがともに輝くまちづくり審議会

日付：令和8年2月25日(水)

時間：午前10時00分 開会

場所：本庁4階 庁議室

【開 会】 コミュニティ推進課 ダイバーシティ推進グループリーダー進行（10:00～）

志布志市ひとがともに輝くまちづくり条例（以下条例という。）第23条第2項の規定により、委員の過半数10名の出席を得て会議が成立

【課長挨拶】 コミュニティ推進課長あいさつ

本日は御多用の中、令和7年度 第2回志布志市ひとがともに輝くまちづくり審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から男女共同参画をはじめとした本市のダイバーシティ社会の推進に御協力いただき、ありがとうございます。

さて、近年、社会を取り巻く環境は大きく変化し、性別、年齢、国籍、障がいの有無など、多様な背景を持つ人々が互いを尊重しながら共に暮らし、働くことが求められる時代となっております。ダイバーシティ（多様性）の考え方は、誰もが自分らしく生活を送り、地域社会に積極的に参加できる社会づくりの鍵となるものです。

本市においても、多様性を尊重し、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指してさまざまな取り組みを進めております。この会議は、皆さまとともにダイバーシティの推進に向けた課題やアイデアを共有し、市民一人ひとりが力を合わせた実現可能な取り組みを模索する場となっております。

本日は、第4次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン推進のための計画に基づく今年度の取組に対する評価をいただくほか、令和7年度の取組について報告させていただきます。皆さまからの貴重なご意見をお伺いし、一緒に前進するきっかけとさせていただきます。

最後に、多様性が活きるまちづくりを皆さまとともに積極的に担ってまいりたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【協 議】 進行：田川会長

(1) 「第4次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン」に基づく評価

コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループが「第4次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン」に基づく評価について説明し、意見を求めた。

（質疑応答）

Q1 女性活躍推進に関する取り組みへの参加学習機会の提供というところで、昨年度から今年度でAからBに評価が下がっている具体的な理由をご説明いただきたい。

A 1 事業の実施にあたりアンコンシャス・バイアスや固定的性別役割分担の影響についての評価視点が、前年度から1ポイント下がっていることで、AからBに評価が変わっている。

Q 2 地域における子どもの頃からの人権・男女平等に関する理解の促進がB評価であるが、個人的にはもっと低い評価になるのではないかという印象である。

A 2 教育委員会の取組みが充実しているということからB評価になっている。今後も教育委員会と連携を図りながら、充実を図っていきたい。

Q 3 男性の家事・育児・介護等への意識改革と参画の推進が令和6年、令和7年、どちらもB評価だが、男性の方が育児休暇を取るのをまだあまり見たことがない。志布志市役所の男性の方の育児休暇取得率はどうか。

A 3 今年度の志布志市役所の男性の育児休暇取得率は、50%であった。

Q 4 雇用促進運営協議会ママカフェ開催による女性の再就職支援とあるが、評価事業としては、合同企業説明会事業となっている。志布志市が高校生を対象にしていた説明会を一般参加もできるよう対象を広げたことで再就職支援に関連した取組みとしてイメージした。ママカフェは、育児とかで仕事を辞められた方が再就職しやすいような、再就職のきっかけを支援する場なのかなと思っていたが、今年度は合同企業説明会となっていた。他に取組まれたことはなかったのか。

A 4 雇用促進運営協議会ママカフェ開催による女性の再就職支援については、担当課と協議をするなかでママカフェ開催における参加者を募っても対象者になかなか集まってもらえず、取組みが困難であると判断したとのことで、新たな形での取組みを検討していたところ、再就職支援として、合同企業説明会の対象者を高校生だけに限らず、一般の方を男女問わずに再就職に向けた支援の取組みとして事業展開したため、評価事業として取り上げた。

Q 5 先ほど志布志市内の外国人の人口が924人と説明があったが、大人の人口だけか、家族（子どもを含めた）での人口なのか。家族で一緒に来られた方の子どもへの言葉の学習支援が必要だと思う。また、ボランティアで活動されている方が何人いるのか教えてほしい。

A 5 924人は、志布志市内に登録されている全ての外国人の人数なので子どもも含む。在留資格で多くを占めているのは、技能実習と特定技能になっている。教育委員会としても外国人の子どもに対する言葉の学習支援が必要であるという認識のもと、学習の場を設けられるよう検討していくようである。ボランティアで日本語を教える活動をされている方は3名で、企業や地域から相談があった場合にボランティアの方々につなぎ、学習の場を設けられないか相談している。

Q 6 学校に入学する年齢の子どもが何人いるかということは市で把握できるのか。

A 6 本市に登録のある方は、年齢を把握することが出来るので、小学校、中学校に入学する方が何人いるかは分かるが、親の転勤、仕事の都合で突然転入されるご家族の情報までは把握することが難しいので、学校も対応が難しいと思う。

Q 7 翻訳機を鹿屋市が貸し出していると聞いた。翻訳機があると凄くコミュニケーションをとりやすくなる。言葉の勉強をされて入国される大人の方が多いと聞いているが、家族の事情で言葉も文化も分からない状況で入国してくる外国人の子どもは戸惑うと思うので、翻訳機などのシステムが充実するといいなと感じた。

A 7 今年度、各庁舎の手続き等を行う窓口が多言語通訳システムを導入した。窓口の担当部署に相談して貸出しができるような態勢をとっている。

Q 8 地域コミュニティ協議会の関係で事業の実施にあたりアンコンシャス・バイアスや固定的性別役割分担の影響はないかという項目の評価が3点となっている。各地域のイベント参加に関しては影響がないとなっているが、地域コミュニティ協議会の運営においてもアンコンシャス・バイアスに配慮されているのか。

A 8 各地域でのイベント参加はもちろんだが、運営等においても研修や周知・啓発活動を通じて、地域コミュニティ協議会内での役割分担が改善されてきていることから、今回の評価につながった。

【協 議】 (2) 令和7年度取組について

コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループが令和7年度取組について説明し、意見を求めた。

(質疑応答)

委員からの質疑なし

【委員発言】 12月14日にアピアに偶然、孫と買い物に行ったときにパネル展「私たちだって“いいふうふ”になりたい展」が開催されていた。LGBTQに関する展示会であったが、小学生の孫は全然違和感なく展示されているものを見て、素直に受け止めていた。従来の私たちでは考えられない光景だと感じた。また、気軽に立ち寄れる場所での開催であれば、少し見ていこうと思える。凄くいい催しだと感じた。

【委員発言】 同じく12月14日にアピアに買い物に行き、パネル展を拝見した。写真やメッセージのパネルが色々あったが、写真は、凄く良い表情が切り取られており、パネルで発信されている1つ1つのメッセージは、やはり大事だなと感じた。

【協議終了】議長降壇

【事務連絡】コミュニティ推進課 ダイバーシティ推進グループリーダー進行

- ①出前講座の活用依頼
- ②市民講座への参加依頼

【閉 会】コミュニティ推進課 ダイバーシティ推進グループリーダー進行（～11:30）